

和名：エンドウ萎ちょう病菌

学名：*Fusarium oxysporum* f. sp. *pisi*

英名：Fusarium wilt of pea、near wilt

分布

インド、台湾、中華人民共和国(香港を除く)、英国、フランス、ドイツ、ロシア、アメリカ合衆国、カナダ、アルゼンチン、ブラジル、アルジェリア、南アフリカ共和国、オーストラリア、ニュージーランド、ハワイ諸島等

宿主植物

エンドウ

病原体

不完全菌類の一種。培地で培養できる。鎌形で主に 3 隔壁の大型分生子、短い分生子柄上に生ずる擬頭状の小型分生子塊、さらに球形の厚壁胞子を生じる。エンドウにしか寄生しないが、他の植物に寄生あるいは腐生性の *F. oxysporum* と形態では区別できず、接種試験で病原性の確認をする必要がある。種子表面あるいは内部に感染した菌糸、また土壌に残った厚壁胞子で伝搬する。厚壁胞子は環境への耐性が強く、一度土壌中に侵入すると根絶は困難である。

病徴及び被害

これまで11レースの報告があるが、経済的に重要なのはレース1、2、5及び6とされている。レース1、5、6の病徴は"wilt"と呼ばれ、葉が淡黄色になり、托葉や小葉が下方に巻く（図①）。後に植物の先端は堅くなり、葉は張りを失って萎れ、枯死する（図②）。地際部の茎はやや太くなり、主根上部の維管束部が淡黄色から褐色に変色する。一方、レース2の病徴は"near wilt"と呼ばれ、"wilt"と類似するが、症状の発現が遅く、葉は灰色に変色し、植物体の黄化及び萎ちょうは半身だけとなる場合がある。また、維管束は激しく変色し、赤レンガ色となる（図③）。いずれも根は腐敗せず、罹病株は容易に引き抜けない。



図 エンドウの病徴

①：人工接種の結果、変色し、半身だけ下方に巻いた小葉、②：枯死株、③：赤レンガ色に変色した維管束。根は腐敗しない。